

令和3年

東京都教育委員会臨時会議事録

日時：令和3年3月5日（金）午後9時30分

場所：教育委員会室

令和3年3月5日

東京都教育委員会臨時会

〈議題〉

1 報告事項

(1) 都立学校の対応について

教育長	藤田裕司
委員	遠藤勝裕（リモート）
委員	山口香（リモート）
委員	秋山千枝子（リモート）
委員	北村友人（リモート）

事務局（説明員）	
教育長（再掲）	藤田裕司
次長	松川桂子
教育監	宇田剛
技監	矢内真理子
総務部長	安部典子
都立学校教育部長	谷理恵子
指導部長	増田正弘
教育政策担当部長	小原昌
（書記）総務部教育政策課長	秋田一樹

開会・点呼・取材・傍聴

【教育長】 ただいまから令和3年臨時会を開催いたします。よろしくお願いいたします。遅い時間で恐縮です。急きょお集まりいただきましたが、恐縮ですがよろしくお願いいたします。

本日は時事通信社ほか2社からの取材の申込みがございました。これを許可してもよろしゅうございましょうか。—〈異議なし〉—それでは、許可をいたします。入室してください。

日程以外の発言

【教育長】 本日は緊急に臨時会を招集する必要があり参集することが困難でありましたことから教育委員におかれましてはオンラインにより参加する形での議事進行とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

議事録署名人

【教育長】 本日の議事録の署名人は、北村委員にお願い申し上げます。

報 告

(1) 緊急事態宣言の再延長に伴う都立学校の対応について

【教育長】 本日、国におきまして新型コロナウイルス感染症の感染状況等を踏まえ、3月7日までとされていた新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言が3月21日まで期限が延長されました。これを受けまして先ほど都においても対策本部会議が開催をされ、都における対応について報告されたところでございます。

今回も学校に対する休業処置等の要請はなされておりましたが、緊急事態宣言が延長されたことを踏まえた今後の都立学校における対応について確認するため、臨時会を招集させていただきました。都立学校においては、感染防止対策を徹底しながら学校運営を継続する方針ですが、その具体的な対応方法について御報告をさせていただきます。

それでは、報告事項(1) 緊急事態宣言の再延長に伴う都立学校の対応についての説明を教育政策担当部長からお願いを申し上げます。

【教育政策担当部長】 報告資料(1)に基づきまして緊急事態宣言の再延長に伴う都立学校の対応を御説明申し上げます。

本日3月5日、国は1都3県を対象に緊急事態宣言を3月21日まで再延長したことに伴いまして、東京都は緊急事態措置等を再延長し、新規感染者数を徹底的に抑え、感染の拡大を防ぐため、都民に対する不要不急の外出自粛の徹底、学生の卒業旅行などの自粛、歓送迎会や謝恩会などの会食の自粛、テレワークの取組み強化、イベントなどの開催制限の要請など、徹底した対策を講じることとされたところでございます。

都立学校におきましては、1月7日からの緊急事態宣言下における現行の対応を、基本的に緊急事態宣言が解除されるまで継続するというところでございまして、この資料に基づきその内容を御説明申し上げます。

まず「1 緊急事態宣言下における対応」についてでございます。学校運営の基本方針を御覧ください。学校運営は感染防止対策を徹底しながら継続し、感染状況に応じて学校における対面での指導と家庭でのオンライン学習等の配分を変えて対応してまいります。

次に、「教育活動上の対応」でございますけれども、中止する教育活動としてまず御説明申し上げます。飛沫感染の可能性が高い学習活動や部活動、修学旅行等の宿泊を伴う行事などを引き続き中止といたします。資料にも書いてありますが、部活動について一部各競技団体等が主催又は後援する大会等が行われる場合、感染症対策の徹底や生徒、保護者の同意書を得る、生徒の健康観察を徹底することを条件として、例外的に参加を認めるとしております。

また、卒業式及び入学式は時間短縮や人数制限などの感染症対策を講じて実施してまいります。

「2 時差通学の徹底及びオンラインの活用について」でございますが、引き続き時差通学の徹底とともに高等学校などにおきましては、対面指導とオンライン学習などを組み合わせました分散登校を実施してまいります。

次に、「高校入選の実施等」についてでございます。2月4日の第2回教育委員会定例会におきまして、(1)推薦に基づく選抜の実施状況について御報告させていただいたところでございます。

資料の2ページ目でございます「(2)第一次募集分割前期募集の実施状況」について御説明申し上げます。受験者数は39,956名、183校。濃厚接触者ではありますが、PCR検査の結果が陰性であったため、特別措置として別室受験が認められた受験者は

12名12校でございました。

また、37度以上37.5度未満の発熱により別室で受験した者は22名12校、37.5以上の発熱により受験させなかった者は7名7校、追検査の申請者数は16名16校でございました。

「(3) 今後の予定」でございますが、3月10日に分割後期全日制2次追検査、3月26日に定時制2次、全日制3次追々検査、4月4日から6日に通信制の選抜の予定をいたしております。

次に、「3 児童生徒等への個別配慮」についてでございます。引き続き特に配慮が必要な生徒や登校できない児童生徒等への学びの保障を個別に対応してまいります。

次に、「4 生活指導も含めた感染症予防策の一層の徹底」についてでございます。下校中や休日の飲食等によるこれまでの感染事例から生徒のみの会食はしない、カラオケやゲームセンター等には行かない、不要不急の外出自粛、卒業後においても自覚ある行動をとる、卒業旅行はしないなど、春休みや新学期を迎えるに当たり、気の緩みなどによる行動をさせないように、学校以外における感染症対策の一層の徹底に向けた指導を行ってまいります。またあわせて、保護者の皆様への周知なども行ってまいります。

次に、「5 区市町村教育委員会への対応」についてでございますが、小中学校につきましては引き続き感染防止対策を徹底しながら学校運用を継続することをお願いいたします。

また、春休みに向けた学校以外における感染症対策の一層の徹底など、保護者の皆様への周知などにつきましてもお願いするところでございます。

最後に、こちらのページでございますが、3ページ目ですが、参考といたしまして、学校再開後の昨年6月1日からこの2月28日までの、都立学校の児童生徒等の感染状況を記載いたしております。児童生徒等の陽性者数は合計で上の方でございます813名となっております。都内全体の感染状況に占める割合は低いものとなっているところは御覧いただけるかと思えます。冬休み期間中および冬休み明けに感染者数の最多を更新してしまったところでございますが、部活動の中止や分散登校の実施などにより現在は減少している状況でございます。

【教育長】 ただいまの説明につきまして、御質問、御意見等がございましたら願

いを申し上げます。

【遠藤委員】 今回の措置はこれまでの緊急事態宣言下における都立学校への対応、これの延長線と基本的に考えてよろしいのでしょうか。今回特に新しく付け加わったもの、今伺った範囲内では春休み中の行動等の言葉が加わったのかなと思いますけれども、新たに加わったものがあるのかどうか、お伺いしたいと思います。

【教育政策担当部長】 基本的には今までの措置の継続でございます。新たに加わったところとしましては、例外的な措置として、部活動のうち一部、各競技団体などが主催または後援する大会、想定しておりますのは全国大会等ですけれども、日本全国で言いますと感染状況が回復していることもあって全国大会が開かれるものがございます。そういった大会が行われる場合にそこに参加するための部活動に関して感染症対策を徹底することですとか、あるいは生徒、保護者の同意書を得ることですとか、あるいは生徒の健康観察を徹底するという条件の下で、限定的に認めるというところが加わったところになります。

【遠藤委員】 はい、分かりました。ありがとうございました。

【教育政策担当部長】 また、春休みになっても気が緩まないようにということで、呼び掛けが追加されているところではございます。取組の内容としては追加的というよりは引き続きの内容になります。

【秋山委員】 はい、今回こういう規制が続いているわけですが、今後解除になるときに段階的に解除していくなど、その準備は考えていらっしゃいますでしょうか。

【教育政策担当部長】 はい、こちらは再々延長ということになるのですけれども、当初の頃から緊急事態宣言の発令中の取組はということで構えを作らせていただいているところではございますので、その後、段階的にしっかりと回復していくために手順を組んであるところでございます。

【北村委員】 ありがとうございます。この状況の中で必要な対応かなというふうに理解しておりますが、今秋山委員から今後段階的なという話もありましたが、ある意味ウィズコロナで来年度もですね、完全にコロナ以前と同じようには学校教育の様々な活動をできるわけではないと思うので、その中でそれでもそれが日常として子供たちが今のように大きなストレスを抱えることなく、日常の学校生活を送れるような対応、そのスペースのとり方であるとか、部活動のやり方等を含めてですね、やはりこの解

除になる前からそれを見据えてどういうことが、まあこの1年で随分いろんな経験を積んできたと思いますので、学校現場で日常、ある意味コロナと一緒に過ごす日常としての学校生活を、その中でどう充実させるかというのをですね、これは各学校、各先生がいろいろ試行錯誤されていると思うのですが、教育委員会としてもそういう先生方の試行錯誤、学校の試行錯誤を是非これからもサポートして、早め早め現場当たりにやって行くのではなくて、これから1年ぐらいはこういう状況が続いても仕方がないというような覚悟を持ってですね、その中であまり大きくしょっちゅうポリシーとかが変わることなくこういう形でやって行けば何とかコロナと付き合いながらやって行けるのではないかという、そういうものを是非一緒に教育委員会、そして学校、先生方、そして保護者、地域の方々と一緒に考えていくということをお願いしたいということでよろしくお願いします。

【教育政策担当部長】今日の資料の中でも、2ページ目に、児童生徒等への個別配慮というところ、また改めて記載させていただいているところではございますけれども、やはりこのコロナを起因とする行動制約などを図っている中で、学校では子供たちの一人ひとりの状況を、個別の配慮が必要なものに対してはしっかり配慮していくというところを心掛けていただいているところでございますし、今回の通知の中でも改めてその点を確認する意味も込めて掲げさせていただいているところでございます。

また、1ページ目ですけれども、やはり感染防止対策を徹底しながら、学校運営自体は継続するという大方針の下で、いろいろと不便なことはあるんですけれども、この間も学校は止めないで続けてきておりました、引き続き万全の対策を講じながら進めていきたいと思っております。

【山口委員】 はい、ありがとうございました。先ほど部活動は停止、中止ということで、ただ例外的に恐らくは全国大会等の予定がある部活動に関しては、感染防止対策を徹底した上で実施を認めるということだったのですが、是非、御配慮いただきたいのは、やはり全国大会となるとかなりレベルの高い大会となりますし、パフォーマンスが求められるというふうに思います。そういった大会を目指して活動している、競技を続けている生徒たちは大丈夫かと思うのですが、やはり今までどおりとはいっていないと思うのですね。それが本番になったときにやはり当たり前ですが、良いパフォーマンスを出そうとするあまり、無理をしまったり、怪我や事

故につながるということも十分に考えられますので、その辺りを一つ目配りをしていただいてご注意いただきたいということが1点、それから他の部活動が中止であるということがあるわけで、ある特定のその全国大会を目指す部活動のみが行っているということから特異な目で見られて「何でお前たちだけやっているんだ」とかですね、「どうしてこうなんだ」というような雰囲気であったりですね、中傷を受けたりとかということもあり得ると思います。それは保護者からであったり、近隣の住民からであったりとかということもありますので、そういったことが生徒たちに向かわないように、このことにつきましても十分に御配慮をいただければなというふうに思うところがあります。

それからもう一点、全国の中でも特にこの首都圏ですね、東京を中心としてこの自粛生活が長くなっています。当たり前ですけれども、大人でもこの自粛に疲れてきていますし、羽目を外したいと思うのが普通のところだと思うのですね。生徒たち、例えば高校生で言えば、1～2年生はこれからこう普通に学年が上がっていくわけですが、特に卒業生ですね、卒業したということと仲間と別れるというようなことで、何かしらのそういうイベント的なことをやりたいという気持ちも分からないでもないと思いますので、そういったことを想定しながらこういう形であればできるのではないかと、こういう形だったら感染防止をしながらやれるんじゃないかということですね、是非先生方も相談に乗ってあげながらですね、頭ごなしに駄目駄目だということではなくですね、是非生徒たちの気持ちに寄り添って感染防止に努めながら巣立って行けるようにですね、これも御配慮いただきたいというふうに思っております。以上です。

【教育政策担当部長】 はい、3点あったかと思います。まず生徒の大会に臨むに当たっての怪我の防止や安全確保という点ですけれども、今回大会から起算して14日前からの活動を、大会始動までの活動を認めるということを出しました。一つはやはり健康観察をしっかりとやるということを考えますと、14日間の健康観察というのが必要だろうということもありますし、またその間に怪我の防止のために体をしっかりと動かしてもらってということもあってのことです。怪我がないようにということにつきましては、委員から御意見をいただいたところを踏まえてしっかりと取り組んでもらえるように伝えていきたいと思っております。

他の部活からの「何でこの部活だけが」というところに目が行かないようにという点につきましても、しっかりと取り組んでまいりたいと思います。

あと、特に卒業生を中心に、その気持ちに対しての寄り添いという点につきましても、各学校において卒業式もしっかりと行っていくものでもございますし、やっていただけののかなとは思いますが。一方で、やはり今このタイミングで感染をしっかり押さえ込んでいかなければならないということは、大人子供関係なくみんなで取り組んでいるものでございまして、卒業生に対してもしっかり卒業生としての自覚ある行動をとるという呼び掛けはしてくれということ、今回の通知の中でも先ほど御説明申し上げたようなところでございます。バランスをとりながらですね、我慢するべきところは我慢しながらということも必要かと思っておりますのでしっかりとやっていきたいと思っております。以上です。

【遠藤委員】 数字的なことで恐縮ですけれども、先ほどの御報告の中で都立学校生の感染者の累計で1,000人弱ということでウエイトとしては低いということですが、これをなかなか計測することは難しいかと思っておりますけれども、この800人強の感染者の原因ですね、学校オリエンテッドだけなのか、あるいは家庭内感染の中にたまたま都立学校生がいたということなのか、要するに800人強の感染者のうち学校オリエンテッドの感染者のウエイト、これがどれくらいなのかなというのがちょっと関心を持って見ております。というのが、細かく御説明をいただきましたけれども、こうした感染対策の徹底がこうしたウエイトの低さ、あるいは家庭内感染の方が多いのかなんてというような感じも持っていますけれども、その辺の数字的なものはなかなか保健所の方でもいろいろ調査しているようではございますけれども、もし教育委員会の方で何かそういった類推といたしますか、サンプリング的にもどこが原因なのかというようなことを調査したようなものがあれば教えていただきたいと思っております。

それから、2点目は先ほど山口委員からのお話がありましたけれども、子供達にまあラフな言い方をすればウンザリしているという感じがあるのかなと思っております。そして、密にならないようにとか、不要不急の外出は控えるようにとか、型通りの要請が行われているわけですが、我々は例えば不要不急の意味は分かっています。しかし、子供たちにとって不要不急、彼らが出掛けるというのは全部不要じゃないんだよ、不急ではないんだよ、必要だから出掛けるんだよ、急いでいるから出掛けるんだ

よ、という理屈の下でどンドン外に出ていくということになりやしないかなと。もう少し大人に対する言葉とは違う形で、子供達にも分かりやすく説明するということが必要なんじゃないかなということを感じました。先週でしたですかね、都立高校生がバイクの暴走でもって死亡事故を起こしたとかというようなニュースを見るたびにちょっと胸が痛むわけですし、「ああ、大分飽き飽きしてしまったのかな」なんていう感じもちょっと思ったものですからそんな感想を持っております。以上です。

【都立学校教育部長】先ほども先生からお尋ねがありました感染経路別の数字のお話ですけれども、数字そのものを申し上げることは難しいと思うのですけれども、日々数字を見ている中で家庭内感染と経路不明なもの、あと例えば学校で陽性者が判明した後に濃厚接触者が特定されて、そこから陽性者が出ているという大きく、例えばそういう3種類のものがあるわけですけれども、その状況と時期によりまして数字としては動いていますが、現在直近の確認でいきますと学校関係でというのは非常に減っております、ほとんどが家庭内と経路不明の方になっております。簡単ですが、そのような報告をさせていただきたいと思えます。

【遠藤委員】 はい、分かりました。

【北村委員】 これからタイミング的に卒業式のタイミングだと思うのですが、卒業式、修了式含めてですね、本当にこの1年間大人よりも子供たちが一番頑張って、時に羽目を外す子供たちがいて、そういう子供たちが飽きたかもしれないませんが、基本的には子供たちは本当に頑張って過ごしたと思いますので、是非卒業式や修了式にですね、教育委員会の方から何かメッセージ「よく頑張ったね」と、「これからも体を大事に、命を大切に、そして頑張って過ごしていこうね」というような、何かメッセージをですね、出せないかなということを感じ、まあ、思い付きのようなことで恐縮ですが、検討いただければなと思って御提案させていただきたいと思うんですがいかがでしょうか。

【指導部長】 卒業式につきましては、もう3月2日から都立学校においては始まっているわけですけれども、そこには東京都教育委員会からの挨拶という形で、「この1年間を振り返ってこのコロナでいろんな困難があつて、それを乗り越えて皆さんは」というようなメッセージという形で各学校に卒業生に伝えるようお願いはしているところではございます。

【北村委員】 できたら、まあ卒業式は多分そうだろうなと思います、毎年挨拶がありますので。ただ、修了式ですね、全ての学校に対して何かメッセージがあってもいいのかなとちょっと思ったんですけども、その辺りはいかがでしょうか。

【指導部長】 検討の余地はあるかと思いますが、まず各学校の修了式等々では校長はその辺をもかなり強く言うと思うのですよね。それに子供たちは反応してくれるのではないかなというふうに考えています。

【教育長】 よろしゅうございましょうか。

【北村委員】 はい、分かりました。ありがとうございます。まあ、今回じゃなくても良いのですけれども、そういうこともですね、また教育委員会から少しタイミングを見て、まあ、修了式とかでなくても構いませんし、もう少し状況が落ち着いたときでも構いませんので、去年は確か何かそういうメッセージが教育委員会としてもあったかなというふうに思いますので、この先で構いませんので時間をかけて検討していただければ良いかなと思います。よろしくお願いします。

【教育長】 統一したメッセージという形ではまだ出てはおりませんが、個別のいろんな行事の中で、必ずこの1年なりコロナ禍のいろんな制約のある中で、皆我慢をしてきた中でもボランティアだとかいろんなことをやりましたねということで、個別のそういうところでは必ず特別なメッセージを入れるようにはしてきております。

【北村委員】 はい、よろしくお願いします。

【教育長】 他によろしゅうございますか。はい、ありがとうございます。

閉 会

【教育長】 それでは、以上で議事を終了しまして、本日の教育委員会を終了させていただきます。遅い時間に急きょお集まりいただき申し訳ございませんでした。ありがとうございました。

(了)

(午後 10 時 00 分)